

流通菓子の物流における問題と提言

小林 真子

【要旨】

流通菓子の小売金額は2015年から4年連続で2兆円を超えた。しかし中長期的に見れば、少子高齢化や人口減少の影響から市場全体が縮小する可能性があり、菓子流通市場を取り巻く環境は厳しさを増してきている。流通菓子についての物流の特徴として多頻度小口配送や厳密な時間指定配送がある。このことは、低いトラック積載率や地方配送の問題等で大きな問題となっている。本研究では、メーカーと小売業の結節点としての流通を担う卸売業の視点から調査を行った。その上で、トラック積載率、地方への配送、零細店舗の配送という3つの問題に着目し、菓子物流全体の効率化に向けた考察を行った。その結果、零細店舗や地方の小売業への配送方法の見直しが重要であることが分かった。さらに、このような状況下における菓子流通は今後も厳しさを増し、衰退の可能性を示した。

【講評】

現在の流通菓子業界における物流の実態について、統計データや最新の業界動向に関する資料、さらに流通業者へのインビュー調査も行うことで把握し、同業界が抱える物流の複雑な構造的な問題を的確な論拠に基づいて明らかにしている点を大いに評価したい。また、引用、参照、注釈が適切な形式で整えられており研究に対する真摯な態度をうかがい知ることができる。

同業界の物流について実態や問題点を量的および質的データから網羅的に明らかにしている調査や研究は希少であることから、本論文は学術的にも意義のある研究論文となっている。